

平成29年3月期 決算について

平成29年5月9日
JFE鋼板株式会社

平成29年3月期の連結業績(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(百万円未満切捨て)
(%表示は対前期増減率)

	売上高		経常利益		特別損益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期	56,174	△ 3.3	749	-	△ 553	-	33	-
28年3月期	58,097	△ 11.7	△ 273	-	△ 59	-	△ 372	-

注 連結子会社数 29年3月期 5社、28年3月期 5社
持分法適用関連会社数 29年3月期 1社、28年3月期 1社

(百万円未満切捨て)
(%表示は対前期増減率)

(参考)個別経営成績

	売上高		経常利益		特別損益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期	49,411	△ 3.8	695	-	△ 548	-	107	-
28年3月期	51,343	△ 13.6	△ 496	-	△ 59	-	△ 429	-

【当期の概況】

新設住宅着工戸数(持家)は堅調に推移(前年比+2.6%)したものの、消費税増税前に比べ低い水準が続いております。一方、新設非住宅着工床面積は、人手不足による工事遅延は見られますが、旺盛な物件需要があり、上期は前年比+1.2%、下期は前年比+4.4%となりました。

【当期の損益】

このような経営環境の下、急ピッチで事業再構築を実行に移してまいりました。

- 1)クロメートフリー高耐食性カラー鋼板「Jクラフト」を標準仕様として販売開始および拡販
- 2)高付加価値商品への販売シフト
- 3)東日本製造所(京浜)No.4CGL、No.2CGLの休止を伴う生産設備の集約
- 4)物流費削減等のコスト合理化

この結果、当期の連結経営成績は、売上高は56,174百万円(前期比△3.3%、△1,923百万円)と減収となりましたが、経常利益は749百万円(前期比+1,022百万円)と黒字転換いたしました。

また、連続溶融亜鉛めっき設備の休止に伴い、予備品等に関わる特別損失を553百万円計上いたしました。当期純利益は33百万円(前期比+405百万円)と黒字化を達成いたしました。

【次期の見通し】

薄板建材需要は堅調に推移していますが、原板・原料の大幅なコストアップ等、当社を取巻く経営環境は不透明感が増すものと予想されます。

このため、以下のアクションによりメーカーとしての信頼を盤石なものにしてまいります。

1) 高付加価値商品の拡販

- ・クロメートフリー高耐食カラー鋼板”Jクラフト”への更なる切替促進。
- ・クロメートフリーカラー商品のラインナップ拡大：
見る角度で色調が変化し斬新で印象的な表現を可能にした”なでしこカラー”、超高耐久厚膜クロメートフリー鋼板”極み-MEGA G”、等。
- ・曲げ加工性を向上し、加工部の耐食性を改善した”ガルフレックス”鋼板の更なる拡販。
- ・表面外観のさらなる平滑化、美麗化を実現した”エコガルNeo”の販売拡大。
- ・6幅ダクト材のクロメートフリー化推進と拡販。
- ・軽量であることを活かし、地震による建物倒壊や屋根材落下の危険性が低い、金属屋根の耐震性能PRと普及の促進(特に、金属屋根比率の低い西日本への拡販)。

2) 建材商品の開発・拡販

- ・断熱性能・外観デザインに優れたZEH対応PV(太陽光発電)屋根システムの商品化
- ・穴あき25年保証をした耐火ヴァンド・断熱ヴァンドの拡販。
- ・耐震性や耐久性に優れ、軟弱地盤・狭小地にも短工期対応でき、集合住宅や高齢者用住宅にも適したシステム鉄骨“フレームキット”の更なる拡販。
- ・防水性・施工性に優れ、経済的で工期が短い改修用屋根商品の拡販(スレートカバー工法、フットロック瓦棒、タイトロック500、だんだん及び建材新商品)。
- ・施主・ゼネコン・設計事務所・ハウスメーカー・工務店への営業強化。
- ・総合カタログ、商品説明会を活用したお客様へのアプローチ強化。

3) 新規分野への参入・拡大

- ・ドローンを使用して建物の屋根・壁を診断し、老朽化や災害により劣化損傷した外装に対して合理的な補修、リフォームの計画を提案する、インスペクションビジネスによる営業強化。
- ・JFE日建板、北長金日米建材との連携による成型・工事分野の事業拡大。
- ・需要が急増しているJFE機材フォーミングのファステック(新型手摺先行足場)の拡販。

4) コスト競争力の強化

- ・東西2製造所体制によるコスト競争力強化、品質改善。

5) 販売価格の改善

- ・原板・原料の高騰及び需給タイトによる市況上昇に伴う販売価格の改善継続。

以上